

事案名	新宿区の事案（東京都１３－１）
フォローアップ調査資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「旧軍ガス弾等の全国調査結果報告（案）」資料１の２〔１〕 ・「陸軍科学研究所及第６陸軍技術研究所に於ける化学兵器研究経過の概要」昭和３１年６月〔２〕 ・証言（元第６陸軍技術研究所所長）〔３〕 ・「旧軍ガス弾等の全国調査結果報告（案）」資料３の２No. １２〔４〕 ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔５〕 ・証言（元第６陸軍技術研究所関係者）〔６〕 ・新宿区ホームページ〔７〕 ・「本邦化学兵器技術史〔年表〕」昭和３２年〔８〕
追加資料	<ul style="list-style-type: none"> ・証言（〔６〕と同じ元第６陸軍技術研究所関係者）〔Ａ１〕 ・「『イペリット弾』当所敷地内埋設情報に関する対応について」および「衛生研究所改築に係る住民対応」〔Ａ２〕 ・「旧都立衛生研究所敷地内における毒ガス弾等の埋設情報に係る調査結果について」〔Ａ３〕 ・「普通財産一時使用許可申請書」〔Ａ４〕 ・「Intelligence Report on Japanese Chemical Warfare Volume」〔Ａ５〕 ・『平成１６年度国内における旧軍毒ガス弾等に係る情報収集及び取りまとめ業務報告書』〔Ａ６〕 ・『朝日新聞』昭和４６年１０月４日〔Ａ７〕 ・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』の調査依頼について」（回答）平成１６年２月２４日〔Ａ８〕 ・「国内における毒ガス弾等に関する総合調査検討会（第８回）」資料８〔Ａ９〕 ・証言（元独立工兵第２１連隊大尉）〔Ｂ１〕 ・証言（旧軍工兵関係者）〔Ｂ２〕
平成１５年度フォローアップ調査報告書の要約	<p>東京都新宿区には、第６陸軍技術研究所が存在し、終戦まで化学兵器の研究、開発が行われていた。関係者によれば、終戦時に化学兵器を保有していたが、それらは消毒、中和、焼却等により廃棄されたとしている。</p> <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・証言等によれば、終戦時に、第６陸軍技術研究所には、イペリット・ルイサイト・青酸０．１ｔが保有されていたと記載されている〔１〕〔３〕。 <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毒物は保管し、米軍に引き渡したと記載されている〔２〕。

	<ul style="list-style-type: none"> ・元第6陸軍技術研究所長の証言によれば、「終戦時に第6陸軍技術研究所構内において、消毒・中和・焼却などにより化学兵器を廃棄した」と記載されている〔3〕。 <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和30年7月に、東京都新宿区大久保百人町にて、イペリット・ルイサイトの缶12個が発見されたと記載されている〔4〕〔5〕。 <p>その他情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第6陸軍技術研究所（陸軍科学研究所）の設備として、汚毒物投棄のための毒物廃棄井が存在したことが示されている〔2〕。関連する情報も証言として寄せられている〔6〕。 ・新宿区の調査結果として、「区では、毎年区内の地下水の汚染状況を調査しています。平成15年度は、旧陸軍の毒ガス被害が問題になったことから、従来から調査している有機塩素系の3物質に、全シアンとヒ素を加えた5項目について、従来の採水地点60か所に、百人町三丁目（旧陸軍技術研究所跡地）周辺16か所を加えた76か所で調査を行いました。結果は、全シアンとヒ素については、基準値を越えた地点はありませんでした。また、3か所で基準値を超えたテトラクロロエチレンは、主にドライクリーニングの溶剤として使用される揮発性有機化合物であり、旧陸軍毒ガスとは関係ありません。引き続き、周辺の使用事業所に、適正な使用方法等の指導を行います」と調査結果に記されている〔7〕。
新たな情報	<p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元第6陸軍技術研究所第1課員（薬品の管理と廃棄を担当）によると、第6陸軍技術研究所では、じゃ剤、イペリット、ホスゲンを保有していたと証言している〔A1〕。 <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第6陸軍技術研究所には汚毒物投棄のための毒物廃棄井が存在した。これについて、元第6陸軍技術研究所第1課員（薬品の管理と廃棄を担当）は、廃棄井には実験等に使用した薬品類を廃棄したが毒ガスは廃棄していない、廃棄井は研究所に勤務する前から存在しており、相当深いものであった、と証言している〔A1〕。また、終戦後、毒ガス弾等の廃棄や遺棄に関する命令はなかった、と証言している〔A1〕。 ・平成4年に、元第6陸軍技術研究所跡地付近の住民から昭和20年12月上旬頃砲弾状のものを旧軍の赤羽工兵隊が、埋設している光景を目撃し、「作業の内容を現場の人に聞いたところ、毒ガスの『イペリット爆弾』80発を地中に処理す

	<p>るとのことだった。私が見たところでは、埋設現場の深さは20m位で、MP（マッカーサー司令部）の指示で作業していると聞いた」との証言情報が都の公共施設に届けられたので〔A2〕、平成5年に同施設の敷地内において証言情報に該当する場所の物理探査が行われたが、危険物は確認されなかった（なお、埋設証言に係る場所で都の公共施設敷地以外の場所については未探査である）〔A3〕。</p> <p>その他情報</p> <p>（1）第6陸軍技術研究所に係る情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和23年の建物使用新旧対象表によると、旧第6陸軍技術研究所には、「化学兵器性理研究室」、「小製造実験室」、「瓦斯弾格納庫」、「化成容器格納庫」、「爆発井」、「特殊弾薬庫」、「瓦斯弾庫」が存在していたとの情報がある〔A4〕。 ・米軍資料によると旧第6陸軍技術研究所には、「毒ガス格納庫（Storage of poison gas）」、「砲弾爆発試験第1施設（The 1st test chamber for explosion of shell）」、「砲弾爆発試験第2施設（The 2nd test chamber for explosion of shell）」、「ガス放出部屋（Gas discharge room）」、が存在していたとの情報がある〔A5〕。 ・旧第6陸軍技術研究所跡地周辺における土地改変に際し、物理探査等の調査が行われたが、毒ガス弾等は発見されなかった〔A6〕。 <p>（2）終戦時赤羽に駐屯していた旧軍工兵隊に係る情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終戦時、赤羽には独立工兵第21連隊・近衛工兵第1連隊・第2特設警備工兵隊と第3特設警備工兵隊が存在していた〔B1〕。 ・終戦時赤羽に駐屯していた元旧軍関係者（元独立工兵第21連隊 大尉）は、連隊は昭和20年8月15日以降復員業務を行い、9月にはそれを一通り終えたので、自分も9月に復員しているが、それまでに戦後処理や米軍の指示による作業を行ったことはなく、また残った者も、11月いっぱいまで復員しているので、12月には人員はいなかったはずであると証言している。また、元独立工兵第21連隊関係者と元近衛工兵第1連隊関係者に毒ガスの処理の話聞いたことがあるかどうかを尋ねてみたが、そのような話は聞いたことはないし、進駐軍の指示で作業を行ったことも無いと言っていたとしたうえで、両連隊とも昭和20年11月に復員しているので、12月に毒ガス弾の埋設作業に従事するというのは考えられないと思う、終戦時に第2特設警備工兵隊と第3特設警備工兵隊が赤羽にいたとは知らなかった、と証言している（また、独立工兵21連隊には毒ガス弾はなかったし、終戦
--	--

	<p>後に毒ガス弾を遺棄・廃棄したという話は聞いたこともないとも証言している）〔 B 1 〕。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧軍工兵隊の戦友会関係者は、終戦時に赤羽にいたとされる特設警備工兵部隊について調べてみたが、結局情報は得られなかった、特設警備工兵隊が存在していたとしても、進駐軍の依頼で作業をするような規模ではないと思われると証言している〔 B 2 〕。 <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和 4 6 年 1 0 月、都立衛生研究所の増築工事現場で異臭が生じ、白い煙が立ち込めたが、調査の結果、旧軍の着臭剤（エチルメルカプタン）であることが確認された〔 A 7 〕。 ・毒ガスとの因果関係は不明だが、新宿区によると平成 4 年頃区立百人町三丁目住宅前の工事現場で、近所の女性が鉢植えのために現場の土壌を採取して持ち帰ったところ、手に症状がでたとの情報がある。なお、工事現場から瓶（瓶の種類等は不明）が数本発見されたとの情報もある〔 A 6 〕。 ・平成 1 5 年度地下水汚染調査（新宿区）結果によると、第 6 陸軍技術研究所周辺は、ヒ素が 1 地点で検出（ 0 . 0 0 1 7 m g / l ）されているがその値は、環境規準値（ < 0 . 0 1 m g / l ）以下であった〔 A 8 〕。 <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧第 6 陸軍技術研究所跡地は、東京都の研究施設、民間会社、公務員宿舎、総合病院、団地等になっている〔 A 6 〕。
環境調査の結果	<p>地下水・大気（表層ガス）・土壌調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 1 6 年度に、旧第 6 陸軍技術研究所跡地及びその周辺において 1 0 地点の地下水調査を実施した結果、毒ガス成分は検出されなかった〔 A 9 〕。 ・平成 1 7 年度に、旧第 6 陸軍技術研究所跡地内において 2 0 地点の大気調査及び下記の物理探査の実施範囲において 6 地点（ 1 検体）の土壌調査を実施した結果、毒ガス成分は検出されなかった（資料 3 - 1 の「別表 B / C 事案及び新規事案に係る環境調査の結果一覧表」参照）。 <p>物理探査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 1 7 年度に、終戦後にイペリット爆弾 8 0 発を地下 2 0 m に埋設している光景を目撃したとの証言情報に係る範囲のうち、過去における物理探査の経歴が不明な場所において表層からレーダ探査・磁気探査を実施したところ、証言情報に合致する検知点は確認されなかった（資料 3 - 1 参照）。